

平成27年度「英語能力判定テスト」における 大淀中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、教育振興基本計画(*)に基づき、英語イノベーション事業(*)の一環として、「英語能力判定テスト」を実施いたしました。このテストの目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることにあります。

学習指導要領における中学校英語の目標は、4技能(「読む」「聞く」「話す」「書く」)を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成と示されております。本テストで測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

1 目 的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象 大阪市立全中学校 生徒 1～3年生

3 実施日

- ・3年生 平成27年 11月2日(月)
- ・2年生 平成28年 2月4日(木)
- ・1年生 平成28年 2月3日(水)

学年	テストの種類	テストの難易度	テスト内容		満点スコア
			筆記問題	リスニング問題	
3年	テストD	英検3～5級レベル	50題	30題	460点
2年	テストE	英検4～5級レベル	40題	25題	400点
1年	テストF	英検5級レベル	25題	25題	340点

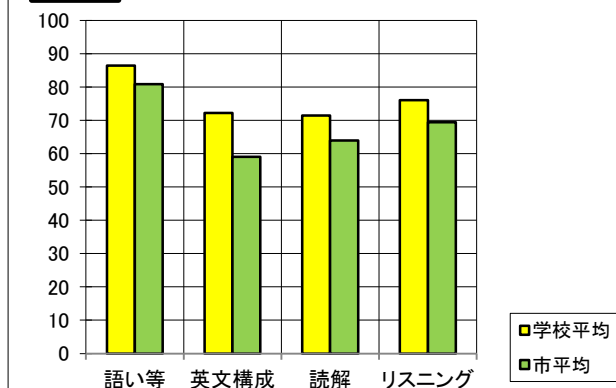
* 教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

* 英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

平成27年度「英語能力判定テスト」結果の概要と今後の取組 大淀中学校

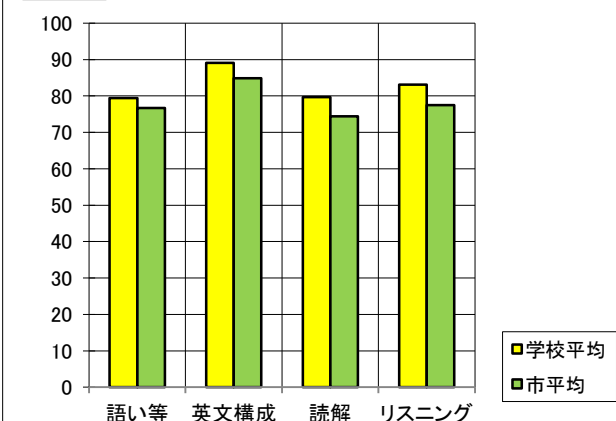
3年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	86.4	72.2	71.4	76
市平均	80.8	59.0	63.9	69.4

3年



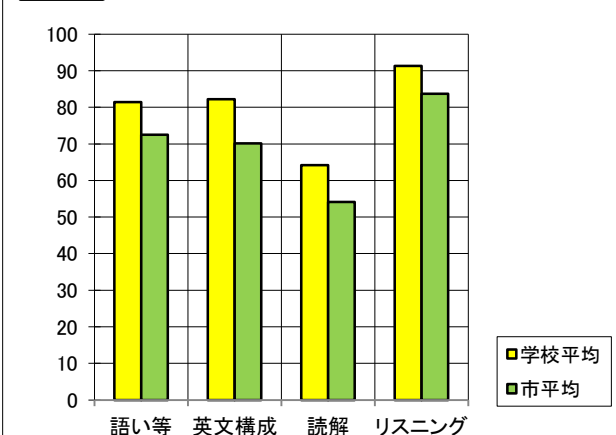
2年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	79.4	89.1	79.7	83.1
市平均	76.7	84.9	74.4	77.5

2年



1年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	81.4	82.2	64.2	91.3
市平均	72.5	70.1	54.1	83.7

1年



結果の概要と結果をふまえた今後の取組

※各学年において実施したテストはそれぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

3年

英検3～5級レベル:スコア 0～460点

《結果の概要》

各項目において、大阪市平均を上回った。また、3級および3級以上判定を受けた生徒は45.7%と、大阪市の目標である30%を超えることができた。

英語の語順になれるための練習を積んだ結果、英文構成の理解で大きく成果が見られた。

《結果をふまえた今後の取組》

英文構成の理解と定着をしっかりと目指していくとともに、教科書の範囲外の語い等にも自然に触れられるような教材の研究や指導方法の工夫、時間の確保を図っていききたい。また、作文やスピーキングの指導においては、複数の教師が一人ひとりの生徒に個別指導ができる体制を構築していく。

2年

英検4～5級レベル:スコア 0～400点

《結果の概要》

各項目とも、学校平均が大阪市平均を上回っており、学習内容がバランスよく定着しているものと思われる。また、3級および3級以上判定を受けた生徒は40.2%と、大阪市の目標である30%を超えることができた。これは、習熟度別少人数授業やC-NETとの連携した授業を通して、きめ細かい指導を展開することができた成果と考えられる。

《結果をふまえた今後の取組》

これまでどおり、基礎・基本を確実に定着させることを目指しつつ、学力の定着が困難な生徒の指導に重点を置いた習熟度別少人数授業を展開していくとともに、よりレベルの高い問題にも取り組んでいく。

1年

英検5級レベル:スコア 0～340点

《結果の概要》

どの項目も大阪市平均より10ポイント前後高い結果となった。特に、リスニングの正答率が非常に高い。これは、習熟度別少人数授業やC-NETとの連携した授業を通して、きめ細かい指導を展開することができた成果と考えられる。また、5級以上および5級以上判定を受けた生徒は87.9%であった。

《結果をふまえた今後の取組》

読解の理解度の充実に向け、対話文や日記分など、まとまりのある英文章に触れることができるような指導方法の工夫を行っていくとともに、基礎・基本的な復習を継続させながら、「会話力」や「表現力」向上につながるよう、語彙力や英文構成といった分野の指導に重点的に取り組んでいく必要がある。